

大東工業は1963年に設立し、50年を超える歴史を有する。塗装技術に強みを持ち、98年には日本自動車車体整備協同組合連合会の「優良自動車塗装工場」に認定された。近年加速する水性塗料化にも2008年から積極的に対応を進めてきた。一代で同社を築いた田中社長は、業界の流れをいち早く察知し、投資を積極的に行うことで新技術への対応を図っている。

(中野支社・伊藤智広) 私ほもともと材木や茶葉を販売する会社の営業をしていたが、27歳のときに転職があった。名古屋市内を勉強で訪れた際、整備工場が売りに出されていることを知った。当時7才

大東工業 (名古屋市中川区)

田中 淳 社長



温かいおしほりを渡など新たな収益源の確保を図り、「せひうちで」としている。5年前からは顧客の方が一の事故に対応するため、元日を除き364日保険の受付を拡大していった。大行っている。「安心・安全を届ける」ために必要なことと位置づけ、お客様からの信頼を勝ち取ったときは「勲章を取った気分」と喜んでいた。ピーク時には月 塗装業に際しても時代の変化 将来は全部で三つある工場のうち一つを完全水性塗装工場にしたい。現在は社員9人が大手ディーラーの板金塗装工場に出向し、水性塗料の塗装技術を磨いている。当社の「自覚と行動」のスローガンのもと、整備業としての強い自覚を持ち、お客様の要望に応えていきたい。

完全水性塗装を実現したい

リゼーションが加速するなか、自動車業界の将来性を信じて購入を決意した。そこから当社の板金塗装事業をスタートさせた。当初は当然知識も乏しく、苦み、入庫台数は減少に転じた。労働も絶えなかった。見積もりや自動車知識を身に付けるために保険会社の鑑定人のもとで何日も勉強させていただいた。その知識をもとに、自ら営業活動も積極的に行った。近隣のタクシー営業所に出向き、運転手に

新 整備人

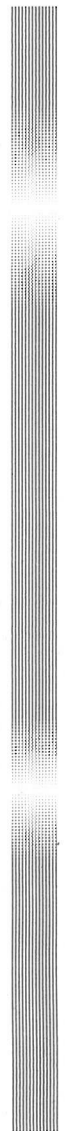
アフター市場に挑む

●66○

塗装業のディーラー内製化が進んでいる。10年ほど前には板金は一環境問題と社員の健康問題へ対応することが重要」と考えられているからだ。当社はもともと高い塗装技術力を強みとしていた。現在は、月350台以上の入庫を維持し、自動車保険販売にメーカーの講習会などにも

業界動向いち早く察し技術対応

自動車整備



〈プロフィール〉

たなか・あつし 三重県松阪市の商業高校卒業後、10年間材木・茶葉販売の営業に従事。1963年に事業を開始。1993年9月生まれ、80歳。三重県出身。